

【特別支援学校用】

令和2年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)

- A: 十分達成できている
- B: おおむね達成できている
- C: やや不十分である
- D: 不十分である

学校名		佐賀県立うれしの特別支援学校		達成度(評価)																																																																																											
1 前年度 評価結果の概要	<p>・様々な部分ではまだまだ課題は多いが、9項目中A評価が7項目、B評価が2項目で目標は概ね達成できた。</p> <p>・障害の重症・重複化や発達障害を併せ持つ児童生徒が多くなっている中で、個々の教育ニーズに応えるため、研修の機会を増やし、特別支援教育の専門性や障害特性への理解を高める必要がある。</p> <p>・本校特別支援教育コーディネーターを中心に、幼稚園や保育園への支援を充実させ早期入園から適切な指導・支援が行われるようサポート体制を構築したい。</p> <p>・いじめ事案については、認知に至る事案は4月に発生しなかったが、発件数は減らなかった。</p>																																																																																														
2 学校教育目標	<p>キャリア教育を推進することにより、児童生徒一人一人が個性と能力を発揮し、心豊かにたくましく、積極的に社会に参加し、貢献する人間を育てる。</p>																																																																																														
3 本年度の重点目標	<p>(1)「志を高める教育」の推進 (2)特別支援教育の専門性の向上                  (3) 新学習指導要領を踏まえた教育の実践 (4) 進路希望の実現 (5) 積極的な社会参加                  (6) 地域の特別支援教育のセンターとしての役割の発揮 (7) 教職員の働き方改革の推進</p>																																																																																														
4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価																																																																																														
<p>(1)共通評価項目</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th rowspan="2">取組内容</th> <th rowspan="2">成果指標(数値目標)</th> <th rowspan="2">具体的取組</th> <th colspan="2">最終評価</th> <th colspan="2">学校関係者評価</th> </tr> <tr> <th>達成度(評価)</th> <th>実施結果</th> <th>評価</th> <th>意見や提案</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">●学力の向上</td> <td>●児童生徒一人一人のニーズに応じた指導・支援による確かな学力の定着</td> <td>○個々の児童生徒に対する指導・支援満足度80%以上。 ○職員・保護者への「うれしの特別支援学校スタンダード」の周知徹底率90%以上。</td> <td>・児童生徒の人權を尊重した指導・支援の実践。 ・「うれしの特別支援学校スタンダード」の理解と専門性の習得を向上させるための新任者研修会の導入。</td> <td>A</td> <td>・児童生徒の満足度については、保護者アンケートより推察すると、本校で学んでいることや特別支援教育および支援に対し「おおむね満足されている」方がいずれの項目でも98%以上となった。今後も引き続き、確かな学力向上のため取り組んでいく。 ・「うれしの特支スタンダード」を職員室の自机に貼るなど常に意識できるように活用している職員が多かった。また、職員間でスタンダードに基づいて授業構想や生徒支援について話し合いをする機会が昨年度比で格段に増えた。</td> <td>A</td> <td>・十分評価に値する。 ・「うれしの特別支援スタンダード」を提示し、職員に向けてしっかりと方向付けができています。社会生活への適応能力の基礎を育てる指導が大変だと思う。 ・アンケート結果から十分に目標を達成したと評価できる。生徒たちの発表の場も随時設けて生徒の成長と自信につながっていると認める。</td> </tr> <tr> <td>○特別支援教育の専門性の向上及び新学習指導要領を踏まえた教育の実践</td> <td>○各学部の発達段階に応じた教育を意図した教職員が全体の80%達成</td> <td>・キャリア・パスポートの作成。 ・個別の指導計画に関する職員研修の実施。 ・校内研修における育成すべき3つの力を踏まえた授業改善。 ・外部講師を招いての研修会の実施。</td> <td>A</td> <td>・キャリアパスポートについてはファイルに纏じ込みを2月中にはじめ3月に完了する計画で実施。 ・個別の教育支援計画及び指導計画を、計画どおり作成し個別に指導支援を進めることができた。 ・参観期間を実施し、期間中の全ての授業において育成すべき3つの力や、学習指導要領の段階や内容を明記して行うことができた。90%の職員が、育成すべき3つの力や、学習指導要領の段階や内容を意識して授業を行うことが「できた」「だいたいできた」と答えた。</td> <td>A</td> <td>・十分評価に値する。 ・個別に指導計画が立てられ、それに従って支援がされ、先生方の努力が感じられる。 ・個々の能力に応じた教育を毎学期ごとに意識してほしい。</td> </tr> <tr> <td>○進路希望の実現</td> <td>○「志(夢や目標を持ち、その実現に向けて踏み出す力)を高める教育」の推進</td> <td>○「児童生徒の希望や状況等に応じたキャリア教育及び職業教育ができて」と回答する保護者70%以上。 ○進路希望の100%実現。</td> <td>・小から高までの「つながり」「積み上げ」を意識した授業実施・職業教育の充実。 ・生徒、保護者の進路ニーズに合った就業体験の実施。</td> <td>A</td> <td>・研究科と連携して小・中・高・寄附舎の「つながり」を意識した授業が実践できた。保護者アンケート結果「そう思う」「だいたいそう思う」以上は93.8%であった。 ・中等部3年、高等部生全員が事業所見学や面接を設定し、計画通り就業施設体験を実施できた。また、高等部3年生全員が希望する進路先で決定することができ、進路希望の100%実現ができた。</td> <td>A</td> <td>・十分評価に値する。 ・個々に相応しい進路先を見出すために集まるような実習期間をもうけてほしいこと、その中で職場や本人の状況を見極めて進路先を決定していること、先生方の熱心な指導に感謝している。 ・学年当初と年度末の生徒意識の積み重ねを検証できればいいと考える。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">●心の教育</td> <td>●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に着ける教育活動</td> <td>●「居住地域交流」や「学校間交流及び地域との交流」に参加した児童生徒60%以上。</td> <td>・地域の方々や地域社会との関わりを深め、共生社会づくりの基盤となる社会参加を促す。</td> <td>B</td> <td>・「居住地域交流」は感染症予防対応のため、中止になった児童生徒が多い。実施は関係者を含め、小学部は約60%、中学部は約35%の実施率だった。 ・「学校間交流」は、小学部は直接交流を実施できたが、中学部、高等部は感染症予防対応のため実施できなかった。 ・「地域との交流」は中学部、高等部共に後期に予定どおり実施することができた。</td> <td>B</td> <td>・今年はコロナ禍の影響の中、お互いの立場もあり、交流は厳しいと思ってしまう。 ・担当者の生徒への接合の中で与える心の大きさ、豊かさが重要だと思える。 ・居住地域交流への中学部の参加を増やす。</td> </tr> <tr> <td>●いじめの早期発見・早期対応体制の充実</td> <td>●いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事業対応等)について組織的対応ができていないと回答した教員80%以上。</td> <td>・いじめに関するアンケート調査を年5回以上実施。 ・いじめの対応についての研修・会議を年間に5回以上行う。</td> <td>A</td> <td>・生徒及び保護者に対して5回はいじめに関するアンケート調査を行い、いじめの早期発見、早期対応を行うことができた。 ・職員研修を行い、学校におけるいじめは社会全体との連携を要する必要があること、いじめの対応におけるいじめとして捉え、告知・認知して、被害者の立場に立って対応していくことが重要であることの共通理解ができた。</td> <td>A</td> <td>・十分に値する。 ・人に不快感を与えないいじめの事案になると聞き思慮表現が上手にできる人ではない人がいる中で難しいと思う。先生方が日ごろの生徒の様子をよく観察していると思った。 ・早期発見と相手の気持ちを汲み取る心の要請が肝心だと思う。</td> </tr> <tr> <td>○積極的な社会参加の促進</td> <td>○中等部・高等部の生徒たちの社会参加率90%以上、小学部の生徒たちの参加率50%以上。</td> <td>・部活動を中心に、障害者スポーツ大会、アドリブコンク等への参加や各種文化行事・コンクールへの参加や作品の奨励。 ・寄附舎との連携を図った余暇の充実を考える時間の設定。</td> <td>・部活動を中心に、障害者スポーツ大会、アドリブコンク等への参加や各種文化行事・コンクールへの参加や作品の奨励。 ・寄附舎との連携を図った余暇の充実を考える時間の設定。</td> <td>B</td> <td>・新型コロナウイルスの影響もあつたが、社会参加ができています。おおむねできていると答えた保護者障害者スポーツ大会や雑野市地田文化祭などに出席することができた。また、学業コースなどの小集団で和泉寺部公園や雑野市社会文化会館、五町田バス停などの清掃活動を行うことができた。</td> <td>B</td> <td>・コロナ禍の中、行事大会等が例年通りにできなかった部分が多かったと思ふ。しかし、その中でもできる部分での社会参加がなされた努力が感じられることが伝わった。 ・他人との接合・交流を育て、会話できるように導いてほしい。</td> </tr> <tr> <td>●健康・体づくり</td> <td>●「運動習慣の改善や定着化」</td> <td>○児童生徒の実態に合わせた運動を計画し、達成できたと思う教職員80%以上。 ○担任・担当者が児童生徒の標準体重等を意識した指導を計画できたと感じる職員が80%以上。</td> <td>・朝の「遊びの指導」や「生活単元」、「体育」等の時間を活用し個別に運動できる時間を計画し、たのしい「気持ちいい」を体験させる。 ・月1回程度の身体測定を実施する。</td> <td>A</td> <td>・月1回の身体測定を実施することができた。アンケート結果では、授業の中で個別に運動できる時間を計画することができた職員は8割を超えており、児童生徒の実態や標準体重を意識した指導ができています。</td> <td>A</td> <td>・十分評価に値する。 ・健康のため意識的に体を動かすような取り組みがされていると感じた。 ・体を動かす習慣づけに力をつけてほしい。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">●地域支援</td> <td>●効果的な地域支援に向けた特別支援学校のセンター的機能の充実</td> <td>○県西南部地区の特別支援教育のセンターとしての役割を担い、積極的に相談事業を推進し、巡回相談においては依頼に対する実施率100%を目指す。 ○各学部、分掌と連携し、地域支援に役立つ特別支援学校の事例を3つ、教材を5つ紹介、公開講座1回以上実施する。</td> <td>・地域支援リーフレットを発信する。 ・県の事業「特別支援教育コーディネーター-地区別連絡協議会」で、地域の学校のコーディネーターと連携及び、相談事業の案内を行う。</td> <td>A</td> <td>・地域支援リーフレットは、新年度配布に向けて準備を進めている。「特別支援教育コーディネーター-地区別連絡協議会」において、地域のコーディネーターと相互の連携を深めることができた。事業案内、ニーズに応じて個々に情報提供を行った。 ・今年度目標に対しては、巡回相談実施率100%を達成した。また、事例、教材の紹介については、各自複数以上の情報提供を行い、公開講座については年間3回の実施ができた。 ・今後も、「センター的機能」の周知を図りながら、校外に貢献できる手立てを実施していきたい。</td> <td>A</td> <td>・十分評価に値する。 ・地域においてますます必要とされていると感じている。地域の先生方や家族への相談情報提供に「良かった」と感じている。 ・本校での教育事業の外部への発信に努めてほしい。</td> </tr> <tr> <td>●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減</td> <td>●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減</td> <td>●教育委員会規程に掲げる時間外在校時間の上限を遵守する。</td> <td>・19時30分までの通勤の徹底。 ・月1日以上、年間14日以上の年休取得推進。</td> <td>B</td> <td>・19時30分以降勤務した職員(自己申告)は延べ19名、実際には8名の職員が超過していた。また14日以上の年休を取得した教職員は7割であった。3割の職員は年休を十分に取得できていない。次年度は、さらに休暇取得と時間外勤務の削減に向けて働き方改革推進に努めていきたい。</td> <td>C</td> <td>・先生方の仕事量と考えるとなかなか難しい問題と思うが健康維持のためにも業務効率化と時間外勤務時間の削減を目指してほしい。 ・協同作業の充実と個々人が計画的に行動する意識を持ってほしい。 ・やや不十分だと思う。</td> </tr> <tr> <td>●業務改善・教職員の働き方改革の推進</td> <td>○「チームうれしの」意識向上と協働体制を構築</td> <td>○分掌業務の役割分担や遂行方法の見直し。</td> <td>・行事の精選や会議等の効率化。 ・各分掌における適切な役割分担。 ・情報の共有化による遂行方法の見直し。</td> <td>A</td> <td>・職員の9割以上が分掌の見直しを行い改善に向けて取り組むことができたと回答している。 ・コロナ禍で大変であったが、行事・会議の意義など考え、内容の見直しやメール・書面会議など、様々な工夫をしたことがプラスになった。</td> <td>A</td> <td>・「チームうれしの」と掲げることで職員に目標を明確にしておりとても良い。 ・学校運営の行事構築までしていただいたが、個々の生徒に対して様々な支援がなされておき、先生方の協力体制が整っていると感じた。 ・情報の共有化と時期ごとに共通の目標と掲げた活動の推進をお願いしたい。 ・十分に取り組んでいる。</td> </tr> </tbody> </table>						評価項目	取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	最終評価		学校関係者評価		達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提案	●学力の向上	●児童生徒一人一人のニーズに応じた指導・支援による確かな学力の定着	○個々の児童生徒に対する指導・支援満足度80%以上。 ○職員・保護者への「うれしの特別支援学校スタンダード」の周知徹底率90%以上。	・児童生徒の人權を尊重した指導・支援の実践。 ・「うれしの特別支援学校スタンダード」の理解と専門性の習得を向上させるための新任者研修会の導入。	A	・児童生徒の満足度については、保護者アンケートより推察すると、本校で学んでいることや特別支援教育および支援に対し「おおむね満足されている」方がいずれの項目でも98%以上となった。今後も引き続き、確かな学力向上のため取り組んでいく。 ・「うれしの特支スタンダード」を職員室の自机に貼るなど常に意識できるように活用している職員が多かった。また、職員間でスタンダードに基づいて授業構想や生徒支援について話し合いをする機会が昨年度比で格段に増えた。	A	・十分評価に値する。 ・「うれしの特別支援スタンダード」を提示し、職員に向けてしっかりと方向付けができています。社会生活への適応能力の基礎を育てる指導が大変だと思う。 ・アンケート結果から十分に目標を達成したと評価できる。生徒たちの発表の場も随時設けて生徒の成長と自信につながっていると認める。	○特別支援教育の専門性の向上及び新学習指導要領を踏まえた教育の実践	○各学部の発達段階に応じた教育を意図した教職員が全体の80%達成	・キャリア・パスポートの作成。 ・個別の指導計画に関する職員研修の実施。 ・校内研修における育成すべき3つの力を踏まえた授業改善。 ・外部講師を招いての研修会の実施。	A	・キャリアパスポートについてはファイルに纏じ込みを2月中にはじめ3月に完了する計画で実施。 ・個別の教育支援計画及び指導計画を、計画どおり作成し個別に指導支援を進めることができた。 ・参観期間を実施し、期間中の全ての授業において育成すべき3つの力や、学習指導要領の段階や内容を明記して行うことができた。90%の職員が、育成すべき3つの力や、学習指導要領の段階や内容を意識して授業を行うことが「できた」「だいたいできた」と答えた。	A	・十分評価に値する。 ・個別に指導計画が立てられ、それに従って支援がされ、先生方の努力が感じられる。 ・個々の能力に応じた教育を毎学期ごとに意識してほしい。	○進路希望の実現	○「志(夢や目標を持ち、その実現に向けて踏み出す力)を高める教育」の推進	○「児童生徒の希望や状況等に応じたキャリア教育及び職業教育ができて」と回答する保護者70%以上。 ○進路希望の100%実現。	・小から高までの「つながり」「積み上げ」を意識した授業実施・職業教育の充実。 ・生徒、保護者の進路ニーズに合った就業体験の実施。	A	・研究科と連携して小・中・高・寄附舎の「つながり」を意識した授業が実践できた。保護者アンケート結果「そう思う」「だいたいそう思う」以上は93.8%であった。 ・中等部3年、高等部生全員が事業所見学や面接を設定し、計画通り就業施設体験を実施できた。また、高等部3年生全員が希望する進路先で決定することができ、進路希望の100%実現ができた。	A	・十分評価に値する。 ・個々に相応しい進路先を見出すために集まるような実習期間をもうけてほしいこと、その中で職場や本人の状況を見極めて進路先を決定していること、先生方の熱心な指導に感謝している。 ・学年当初と年度末の生徒意識の積み重ねを検証できればいいと考える。	●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に着ける教育活動	●「居住地域交流」や「学校間交流及び地域との交流」に参加した児童生徒60%以上。	・地域の方々や地域社会との関わりを深め、共生社会づくりの基盤となる社会参加を促す。	B	・「居住地域交流」は感染症予防対応のため、中止になった児童生徒が多い。実施は関係者を含め、小学部は約60%、中学部は約35%の実施率だった。 ・「学校間交流」は、小学部は直接交流を実施できたが、中学部、高等部は感染症予防対応のため実施できなかった。 ・「地域との交流」は中学部、高等部共に後期に予定どおり実施することができた。	B	・今年はコロナ禍の影響の中、お互いの立場もあり、交流は厳しいと思ってしまう。 ・担当者の生徒への接合の中で与える心の大きさ、豊かさが重要だと思える。 ・居住地域交流への中学部の参加を増やす。	●いじめの早期発見・早期対応体制の充実	●いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事業対応等)について組織的対応ができていないと回答した教員80%以上。	・いじめに関するアンケート調査を年5回以上実施。 ・いじめの対応についての研修・会議を年間に5回以上行う。	A	・生徒及び保護者に対して5回はいじめに関するアンケート調査を行い、いじめの早期発見、早期対応を行うことができた。 ・職員研修を行い、学校におけるいじめは社会全体との連携を要する必要があること、いじめの対応におけるいじめとして捉え、告知・認知して、被害者の立場に立って対応していくことが重要であることの共通理解ができた。	A	・十分に値する。 ・人に不快感を与えないいじめの事案になると聞き思慮表現が上手にできる人ではない人がいる中で難しいと思う。先生方が日ごろの生徒の様子をよく観察していると思った。 ・早期発見と相手の気持ちを汲み取る心の要請が肝心だと思う。	○積極的な社会参加の促進	○中等部・高等部の生徒たちの社会参加率90%以上、小学部の生徒たちの参加率50%以上。	・部活動を中心に、障害者スポーツ大会、アドリブコンク等への参加や各種文化行事・コンクールへの参加や作品の奨励。 ・寄附舎との連携を図った余暇の充実を考える時間の設定。	・部活動を中心に、障害者スポーツ大会、アドリブコンク等への参加や各種文化行事・コンクールへの参加や作品の奨励。 ・寄附舎との連携を図った余暇の充実を考える時間の設定。	B	・新型コロナウイルスの影響もあつたが、社会参加ができています。おおむねできていると答えた保護者障害者スポーツ大会や雑野市地田文化祭などに出席することができた。また、学業コースなどの小集団で和泉寺部公園や雑野市社会文化会館、五町田バス停などの清掃活動を行うことができた。	B	・コロナ禍の中、行事大会等が例年通りにできなかった部分が多かったと思ふ。しかし、その中でもできる部分での社会参加がなされた努力が感じられることが伝わった。 ・他人との接合・交流を育て、会話できるように導いてほしい。	●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着化」	○児童生徒の実態に合わせた運動を計画し、達成できたと思う教職員80%以上。 ○担任・担当者が児童生徒の標準体重等を意識した指導を計画できたと感じる職員が80%以上。	・朝の「遊びの指導」や「生活単元」、「体育」等の時間を活用し個別に運動できる時間を計画し、たのしい「気持ちいい」を体験させる。 ・月1回程度の身体測定を実施する。	A	・月1回の身体測定を実施することができた。アンケート結果では、授業の中で個別に運動できる時間を計画することができた職員は8割を超えており、児童生徒の実態や標準体重を意識した指導ができています。	A	・十分評価に値する。 ・健康のため意識的に体を動かすような取り組みがされていると感じた。 ・体を動かす習慣づけに力をつけてほしい。	●地域支援	●効果的な地域支援に向けた特別支援学校のセンター的機能の充実	○県西南部地区の特別支援教育のセンターとしての役割を担い、積極的に相談事業を推進し、巡回相談においては依頼に対する実施率100%を目指す。 ○各学部、分掌と連携し、地域支援に役立つ特別支援学校の事例を3つ、教材を5つ紹介、公開講座1回以上実施する。	・地域支援リーフレットを発信する。 ・県の事業「特別支援教育コーディネーター-地区別連絡協議会」で、地域の学校のコーディネーターと連携及び、相談事業の案内を行う。	A	・地域支援リーフレットは、新年度配布に向けて準備を進めている。「特別支援教育コーディネーター-地区別連絡協議会」において、地域のコーディネーターと相互の連携を深めることができた。事業案内、ニーズに応じて個々に情報提供を行った。 ・今年度目標に対しては、巡回相談実施率100%を達成した。また、事例、教材の紹介については、各自複数以上の情報提供を行い、公開講座については年間3回の実施ができた。 ・今後も、「センター的機能」の周知を図りながら、校外に貢献できる手立てを実施していきたい。	A	・十分評価に値する。 ・地域においてますます必要とされていると感じている。地域の先生方や家族への相談情報提供に「良かった」と感じている。 ・本校での教育事業の外部への発信に努めてほしい。	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規程に掲げる時間外在校時間の上限を遵守する。	・19時30分までの通勤の徹底。 ・月1日以上、年間14日以上の年休取得推進。	B	・19時30分以降勤務した職員(自己申告)は延べ19名、実際には8名の職員が超過していた。また14日以上の年休を取得した教職員は7割であった。3割の職員は年休を十分に取得できていない。次年度は、さらに休暇取得と時間外勤務の削減に向けて働き方改革推進に努めていきたい。	C	・先生方の仕事量と考えるとなかなか難しい問題と思うが健康維持のためにも業務効率化と時間外勤務時間の削減を目指してほしい。 ・協同作業の充実と個々人が計画的に行動する意識を持ってほしい。 ・やや不十分だと思う。	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○「チームうれしの」意識向上と協働体制を構築	○分掌業務の役割分担や遂行方法の見直し。	・行事の精選や会議等の効率化。 ・各分掌における適切な役割分担。 ・情報の共有化による遂行方法の見直し。	A	・職員の9割以上が分掌の見直しを行い改善に向けて取り組むことができたと回答している。 ・コロナ禍で大変であったが、行事・会議の意義など考え、内容の見直しやメール・書面会議など、様々な工夫をしたことがプラスになった。	A	・「チームうれしの」と掲げることで職員に目標を明確にしておりとても良い。 ・学校運営の行事構築までしていただいたが、個々の生徒に対して様々な支援がなされておき、先生方の協力体制が整っていると感じた。 ・情報の共有化と時期ごとに共通の目標と掲げた活動の推進をお願いしたい。 ・十分に取り組んでいる。
評価項目	取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	最終評価						学校関係者評価																																																																																					
				達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提案																																																																																								
●学力の向上	●児童生徒一人一人のニーズに応じた指導・支援による確かな学力の定着	○個々の児童生徒に対する指導・支援満足度80%以上。 ○職員・保護者への「うれしの特別支援学校スタンダード」の周知徹底率90%以上。	・児童生徒の人權を尊重した指導・支援の実践。 ・「うれしの特別支援学校スタンダード」の理解と専門性の習得を向上させるための新任者研修会の導入。	A	・児童生徒の満足度については、保護者アンケートより推察すると、本校で学んでいることや特別支援教育および支援に対し「おおむね満足されている」方がいずれの項目でも98%以上となった。今後も引き続き、確かな学力向上のため取り組んでいく。 ・「うれしの特支スタンダード」を職員室の自机に貼るなど常に意識できるように活用している職員が多かった。また、職員間でスタンダードに基づいて授業構想や生徒支援について話し合いをする機会が昨年度比で格段に増えた。	A	・十分評価に値する。 ・「うれしの特別支援スタンダード」を提示し、職員に向けてしっかりと方向付けができています。社会生活への適応能力の基礎を育てる指導が大変だと思う。 ・アンケート結果から十分に目標を達成したと評価できる。生徒たちの発表の場も随時設けて生徒の成長と自信につながっていると認める。																																																																																								
	○特別支援教育の専門性の向上及び新学習指導要領を踏まえた教育の実践	○各学部の発達段階に応じた教育を意図した教職員が全体の80%達成	・キャリア・パスポートの作成。 ・個別の指導計画に関する職員研修の実施。 ・校内研修における育成すべき3つの力を踏まえた授業改善。 ・外部講師を招いての研修会の実施。	A	・キャリアパスポートについてはファイルに纏じ込みを2月中にはじめ3月に完了する計画で実施。 ・個別の教育支援計画及び指導計画を、計画どおり作成し個別に指導支援を進めることができた。 ・参観期間を実施し、期間中の全ての授業において育成すべき3つの力や、学習指導要領の段階や内容を明記して行うことができた。90%の職員が、育成すべき3つの力や、学習指導要領の段階や内容を意識して授業を行うことが「できた」「だいたいできた」と答えた。	A	・十分評価に値する。 ・個別に指導計画が立てられ、それに従って支援がされ、先生方の努力が感じられる。 ・個々の能力に応じた教育を毎学期ごとに意識してほしい。																																																																																								
	○進路希望の実現	○「志(夢や目標を持ち、その実現に向けて踏み出す力)を高める教育」の推進	○「児童生徒の希望や状況等に応じたキャリア教育及び職業教育ができて」と回答する保護者70%以上。 ○進路希望の100%実現。	・小から高までの「つながり」「積み上げ」を意識した授業実施・職業教育の充実。 ・生徒、保護者の進路ニーズに合った就業体験の実施。	A	・研究科と連携して小・中・高・寄附舎の「つながり」を意識した授業が実践できた。保護者アンケート結果「そう思う」「だいたいそう思う」以上は93.8%であった。 ・中等部3年、高等部生全員が事業所見学や面接を設定し、計画通り就業施設体験を実施できた。また、高等部3年生全員が希望する進路先で決定することができ、進路希望の100%実現ができた。	A	・十分評価に値する。 ・個々に相応しい進路先を見出すために集まるような実習期間をもうけてほしいこと、その中で職場や本人の状況を見極めて進路先を決定していること、先生方の熱心な指導に感謝している。 ・学年当初と年度末の生徒意識の積み重ねを検証できればいいと考える。																																																																																							
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に着ける教育活動	●「居住地域交流」や「学校間交流及び地域との交流」に参加した児童生徒60%以上。	・地域の方々や地域社会との関わりを深め、共生社会づくりの基盤となる社会参加を促す。	B	・「居住地域交流」は感染症予防対応のため、中止になった児童生徒が多い。実施は関係者を含め、小学部は約60%、中学部は約35%の実施率だった。 ・「学校間交流」は、小学部は直接交流を実施できたが、中学部、高等部は感染症予防対応のため実施できなかった。 ・「地域との交流」は中学部、高等部共に後期に予定どおり実施することができた。	B	・今年はコロナ禍の影響の中、お互いの立場もあり、交流は厳しいと思ってしまう。 ・担当者の生徒への接合の中で与える心の大きさ、豊かさが重要だと思える。 ・居住地域交流への中学部の参加を増やす。																																																																																								
	●いじめの早期発見・早期対応体制の充実	●いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事業対応等)について組織的対応ができていないと回答した教員80%以上。	・いじめに関するアンケート調査を年5回以上実施。 ・いじめの対応についての研修・会議を年間に5回以上行う。	A	・生徒及び保護者に対して5回はいじめに関するアンケート調査を行い、いじめの早期発見、早期対応を行うことができた。 ・職員研修を行い、学校におけるいじめは社会全体との連携を要する必要があること、いじめの対応におけるいじめとして捉え、告知・認知して、被害者の立場に立って対応していくことが重要であることの共通理解ができた。	A	・十分に値する。 ・人に不快感を与えないいじめの事案になると聞き思慮表現が上手にできる人ではない人がいる中で難しいと思う。先生方が日ごろの生徒の様子をよく観察していると思った。 ・早期発見と相手の気持ちを汲み取る心の要請が肝心だと思う。																																																																																								
	○積極的な社会参加の促進	○中等部・高等部の生徒たちの社会参加率90%以上、小学部の生徒たちの参加率50%以上。	・部活動を中心に、障害者スポーツ大会、アドリブコンク等への参加や各種文化行事・コンクールへの参加や作品の奨励。 ・寄附舎との連携を図った余暇の充実を考える時間の設定。	・部活動を中心に、障害者スポーツ大会、アドリブコンク等への参加や各種文化行事・コンクールへの参加や作品の奨励。 ・寄附舎との連携を図った余暇の充実を考える時間の設定。	B	・新型コロナウイルスの影響もあつたが、社会参加ができています。おおむねできていると答えた保護者障害者スポーツ大会や雑野市地田文化祭などに出席することができた。また、学業コースなどの小集団で和泉寺部公園や雑野市社会文化会館、五町田バス停などの清掃活動を行うことができた。	B	・コロナ禍の中、行事大会等が例年通りにできなかった部分が多かったと思ふ。しかし、その中でもできる部分での社会参加がなされた努力が感じられることが伝わった。 ・他人との接合・交流を育て、会話できるように導いてほしい。																																																																																							
●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着化」	○児童生徒の実態に合わせた運動を計画し、達成できたと思う教職員80%以上。 ○担任・担当者が児童生徒の標準体重等を意識した指導を計画できたと感じる職員が80%以上。	・朝の「遊びの指導」や「生活単元」、「体育」等の時間を活用し個別に運動できる時間を計画し、たのしい「気持ちいい」を体験させる。 ・月1回程度の身体測定を実施する。	A	・月1回の身体測定を実施することができた。アンケート結果では、授業の中で個別に運動できる時間を計画することができた職員は8割を超えており、児童生徒の実態や標準体重を意識した指導ができています。	A	・十分評価に値する。 ・健康のため意識的に体を動かすような取り組みがされていると感じた。 ・体を動かす習慣づけに力をつけてほしい。																																																																																								
●地域支援	●効果的な地域支援に向けた特別支援学校のセンター的機能の充実	○県西南部地区の特別支援教育のセンターとしての役割を担い、積極的に相談事業を推進し、巡回相談においては依頼に対する実施率100%を目指す。 ○各学部、分掌と連携し、地域支援に役立つ特別支援学校の事例を3つ、教材を5つ紹介、公開講座1回以上実施する。	・地域支援リーフレットを発信する。 ・県の事業「特別支援教育コーディネーター-地区別連絡協議会」で、地域の学校のコーディネーターと連携及び、相談事業の案内を行う。	A	・地域支援リーフレットは、新年度配布に向けて準備を進めている。「特別支援教育コーディネーター-地区別連絡協議会」において、地域のコーディネーターと相互の連携を深めることができた。事業案内、ニーズに応じて個々に情報提供を行った。 ・今年度目標に対しては、巡回相談実施率100%を達成した。また、事例、教材の紹介については、各自複数以上の情報提供を行い、公開講座については年間3回の実施ができた。 ・今後も、「センター的機能」の周知を図りながら、校外に貢献できる手立てを実施していきたい。	A	・十分評価に値する。 ・地域においてますます必要とされていると感じている。地域の先生方や家族への相談情報提供に「良かった」と感じている。 ・本校での教育事業の外部への発信に努めてほしい。																																																																																								
	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規程に掲げる時間外在校時間の上限を遵守する。	・19時30分までの通勤の徹底。 ・月1日以上、年間14日以上の年休取得推進。	B	・19時30分以降勤務した職員(自己申告)は延べ19名、実際には8名の職員が超過していた。また14日以上の年休を取得した教職員は7割であった。3割の職員は年休を十分に取得できていない。次年度は、さらに休暇取得と時間外勤務の削減に向けて働き方改革推進に努めていきたい。	C	・先生方の仕事量と考えるとなかなか難しい問題と思うが健康維持のためにも業務効率化と時間外勤務時間の削減を目指してほしい。 ・協同作業の充実と個々人が計画的に行動する意識を持ってほしい。 ・やや不十分だと思う。																																																																																							
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○「チームうれしの」意識向上と協働体制を構築	○分掌業務の役割分担や遂行方法の見直し。	・行事の精選や会議等の効率化。 ・各分掌における適切な役割分担。 ・情報の共有化による遂行方法の見直し。	A	・職員の9割以上が分掌の見直しを行い改善に向けて取り組むことができたと回答している。 ・コロナ禍で大変であったが、行事・会議の意義など考え、内容の見直しやメール・書面会議など、様々な工夫をしたことがプラスになった。	A	・「チームうれしの」と掲げることで職員に目標を明確にしておりとても良い。 ・学校運営の行事構築までしていただいたが、個々の生徒に対して様々な支援がなされておき、先生方の協力体制が整っていると感じた。 ・情報の共有化と時期ごとに共通の目標と掲げた活動の推進をお願いしたい。 ・十分に取り組んでいる。																																																																																								
5 総合評価・次年度への展望	<p>・10項目中7項目が「A」評価、3項目が「B」評価であった。保護者アンケート等からも、おおむね9割の方がおおむねできているという評価をいただくことができた。</p> <p>・「業務の効率化推進と時間外勤務時間の削減」については、学校評価「B」、学校関係者評価「C」と成果が十分とは言えない結果となった。次年度も引き続き勤務時間の削減と業務効率化に向けて改善に向けた取り組みが必要であると考える。</p> <p>・今年度、コロナ禍の影響もあり、生徒たちの「心の教育」の取り組みである居住地域交流やその他スポーツや文化活動への参加が計画通りいかず、取り組み目標に対する正確な評価ができなかった。学校関係者の中にも、社会参加することは、他人とのかかわりを持つ上で重要と考えられており、次年度以降も社会参加等を促しながら、心の教育を推進し、たくましく生きる力を育んでいく。</p>																																																																																														